

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.157

2012/12/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

観察コース補修も大仕事

運び上げた砂礫で路面補修(12/12/08)

前号でも紹介したとおり今年度は多くの団体が保全活動に参画してもらいました。前号以降も地元の小中学校の児童生徒諸君が尾根道の補修作業を雨や曇の中頑張ってくれました。年間 5,000 人前後の訪問者が歩く観察コースは、路面が少しずつ削られ溝が深くなります。そこが降雨時には川となり一段と溝が深くなります。そうなるとうきにくくなったり滑り易い箇所が出来たりします。ところが山門水源の森は、全

地固めをする永原小の児童(12/11/20)

私たちがなりました(12/11/20)

曇の中でも私たち「陸上部ですから(12/12/08)」

西浅井中陸上部の生徒諸君(12/12/08)

域が花こう岩でできているため補修に必要な砂礫が現地には全くありません。そのため必要な砂礫を下から持ち上げるより他ありません。会員や森林キーパーだけでは追いつきません。



会員やキーパーはリックで運び上げ(12/11/24)



訪問者にも協力してもらう(12/11/24)



排水路の設置(12/11/28)



仕上がった土留めと排水路(12/11/29)

会員や森林キーパーは、リュックで何往復もの持ち上げ作業が続く。10 往復もすると体力も限界に近づく。1 日や 2 日で終わることにはならず、訪問者にも協力してもらうこともしばしばでした。コース整備の内容も様々で浸食を防止する土留めや排水溝の設置も待ち受けています。

他方湿原への土砂流入を防止するための沢の砂防作業も際限なく続いています。積雪の中での作業はままならないことも多いですが、森林キーパーの努力で以前にも増して頑丈な堰堤ができてつつありま

す。天然更新試験地や南部湿原のに設置していた食害防止ネットも積雪を待って外す作業も完了しました。これと前後して尾根道のコ



湿原への土砂流入防止堰堤の設置(12/12/18)



コース沿い檜の枝打ち(12/12/18)



食害防止ネット外し(12/12/13)



進入路の除雪も一仕事(12/12/13)

コース沿いの檜の枝打ちも進行中です。

こうした保全作業の間には、その日その日で新しい発見があります。また森に入る時間帯を少し変



「大窓」から伊吹の日の出(12/12/03 6:56)



北部湿原の霧氷と総見山(12/12/14 8:56)

えてみることで新しい森の魅力に出会えます。もちろん積雪期ですからそのことを考えた装備と天気情報を想定してお出かけ下さい。必ず新しい発見が・・・